

# 日本向け優良商品を独自に開発するサウダー

モールディング製造会社のサウダーは、製品の品質とサービスに絶対の自信を持っている。大規模な母体をバックに、森林伐採から品質管理・加工まで、すべてのプロセスを自社・系列会社内で行っているが、何より、サウダーの魅力は、その万全の企業規模にあぐらをかかず、常に「日本にとってのよい製品・よいサービス」を追究し続け、謙虚に日本の消費者の声に耳を傾けている会社の姿勢にあるのではないだろうか。日本への輸出営業担当であるデレック・デイリーさんにサウダー社の特徴を伺った。



日本営業担当マネージャー  
デレック・デイリー氏

## 1 系列会社はインターフォー材料は直接仕入れ

まず、サウダーのモールディング製造を支える母体に、系列会社のインターナショナル・フォレスト・プロダクツ（以下インターフォー）があることを忘れてはならない。インターフォーは、森林伐採を行う米国最大規模の材木会社であり、サウダーは全てのモールディング材料をインターフォーから直接仕入れ、その後、6つの自社工場加工し、販売している。高品質を保持できるのも、全ての工程を自社管理しているからだ。

「日本企業からの製品に対するクレームはほとんどありません」と自負するように、日本人の間で評価の高いサウダーのモールディング。その理由は、後述するように日本市場を知り尽くしたサウダーの心配りがモールディングの品質に反映されているからであろう。

## 2 日本向けモールディング材料は99%ヘムロック その理由とは...?

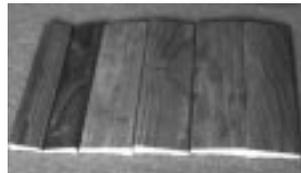
承知のように、モールディングの種類は、材木の種類によって違い、多くのモールディング会社はモールディングの品質ランクを、『オーク』、『ヘム・ファー』、といった具合に分類している。しかしサウダーは日本への輸出製品を、あえて『ヘムロック（米ツガ）』のみで製造している。その理由をデイリーさんに尋ねてみた。

『ヘム・ファー』は品質カテゴリー。木の種類の名称ではないので注意

「『ヘム・ファー』という言葉は品質カテゴリーの一つで、『ヘムロック（米ツガ）』と『ダグラスファー（米マツ）』の混合物を意味します。2種類の材木から生産され、木目の細かさもまちまちになるため、米国ではペンキ仕上げ

専用材として使用されています。しかし、一部の日本人は『ヘム・ファー』を木の種類の名称のように勘違いしているようです。この事実を知らずにオーク材よりお値打ちという理由だけで『ヘム・ファー』を注文してしまうと、届くものは下記の写真のような木目の不揃いの製品で、ステイン仕上げで使用した場合はクレームの対象になりかねません。」

<一般メーカー> ヘム・ファー材  
木目がまちまちでステイン仕上げには適さない



<サウダー> ヘムロック材のみ  
木目が揃い日本人好み。オーク材より低価格



ヘムロック材のみなら、木目が細かくステイン仕上げに適し、また、オークよりも低価格であることから、日本向け商品としては好材料である。サウダーはこの点に着眼した。系列会社がインターフォーであるという強みを生かし、日本市場向けの『ヘムロックモールディング』を生産しているのだ。

## 3 在来工法からのアイデア

今年8月より、2×4工法用ドア枠の新製品の販売を開始した。戸わたりを上からかぶせてのりで貼るタイプのもので、枠サイドに釘をうちつけても、最終的には戸わたりで隠してしまうので釘は見えない。美しい仕上がりが提供できるというわけだ。「このアイデアは在来工法の施工から思いつきました」とデイリーさん。新製品にも日本の声を大事にするサービス精神が顔を覗かせていた。

（取材・文 / 宮川律子 <名古屋>）